

平成 30 年度 図書館情報学海外研修助成報告書

知識情報・図書館学類 3 年知識情報システム主専攻
根本美由樹

1. 研修概要

研修テーマ： 中国における情報学の現状と問題意識の調査
研修期間： 平成 30 年 9 月 10 日～9 月 22 日（12 日間）
目的地： 中国/武漢・深圳・南京・上海
主な訪問先： 武漢大学信息管理学院、湖北省図書館、深圳華強北電気街、蘇寧本社、瀚銀信息技术公司

2. 研修目的

現在、中国社会は古い情報と新しい情報の渦中にある。紀元前から伝わる古代文献から WeChat・アリペイまで、取り扱う情報は膨大でその種類は多岐にわたる。本研修は、中国における情報学分野の現状を調査し、日本の知識情報学に役立てることを目的とする。前半は歴史の古い武漢で図書館情報学分野の調査を行い、後半は情報科学類・社会工学類数名のグループと深圳・南京・上海で IT 企業や市場を訪問・見学した。

3. 研修内容

① 武漢大学信息管理学院

武漢大学信息管理学院は中国で最も優れた図書館情報学の学校である。今回、周力虹教授のご協力により、授業を見学したほか、当学院の学生数名と交流を行った。

◆ 講義「情報システムモデリング」 周力虹 教授（武漢大学）

この授業は、情報システムが社会で果たす役割を、実際に行われた世界中のケースを参考に、社会工学的な観点から考察し、情報管理の論理と実践を結び付けるというものであった。「経営・組織論」と似ている。周教授が「これからは図書館だけではダメなんだ！」と訴えていたのが印象的だった。

◆ 講演「ニューメディア環境下における図書館の新発展」劉茲恒 教授（北京大学）

幸いにも、北京大学の劉教授の特別講演を聴講する機会に恵まれた。この講演はデジタル技術が発展した近年における図書館の在り方を国内外の事例を基に考えるというものである。内容は本学開講の「図書館概論」や「知識情報概論」に類似していた。日本の図書館に比べて予算が潤沢にあり、研究成果を実現できるのは中国図書館の強みだと感じた。

② 湖北省図書館

湖北省最大の図書館である。非常に大きな建物で、湖の畔という景観に恵まれた場所にあった。子供のための図書館やプレイルーム、小さなソファ付きの視聴覚エリア等、特徴的な施設があった。また、古文書を展示する小さな博物館があった。

③ 深圳 華強北電気街

秋葉原の30倍ともいわれる規模の電気街である。複数の大きなデパートが何軒も並んでおり、どの店でも電気部品が売られている。デパート自体は古びていて中も雑然としていた。

部品販売店の多くが深圳市内の町工場から仕入れており、注文に応じてその場で部品を組立・加工する店もあった。タオバオなどのネットショップにもその場で出荷している様子だった。テナントの大部分が家族経営の部品販売店だが、たまにドローンや電子額縁など、最先端の電化製品の小売店があった。

④ 南京 蘇寧本社

家電量販店を前身とし、現在中国有数の小売業者としてあらゆる業界に展開している大企業。グループの中心を商品・経営・顧客・サービスとし、実店舗・PC・スマホ・TV・AI無人店といったマルチルートで商品・サービスを顧客に提供している。“無人コンビニ”は実店舗でありながら、AIなどの高度な情報技術を用いて無人で運営されている。これらは実店舗文化の人にオンラインの習慣を提案し、オンラインのプラットフォームに誘導することを目的にしているという。

⑤ 上海 瀚銀信息技术公司

電子決済の内部システムを開発している会社。内部の情報技術について、トランザクション処理や暗号化などの技術は政府から細かい指定があるという。電子決済はここ十年で急速に発展したにも関わらず、政府がその技術を把握し、周囲の法整備も追いついていることに驚いた。

最後に

今回ご支援をいただきました、図書館情報メディア研究科、知識情報・図書館学類、茗溪会支部図書館情報学橋会のみなさまにお礼申し上げます。今回の研修を企画するきっかけをくださった馮さん、グループ研修を企画してくれた友人たち、企業を紹介してくださった茨城県上海事務所の海野さん、その他にも多くの方のご協力のおかげで研修を実施できました。心より感謝申し上げます。